

令和6年度新潟県原子力防災訓練について

令和7年2月10日

新潟県防災局原子力安全対策課

1 目的

- (1) 新潟県地域防災計画(原子力災害対策編)に基づき、国、県、市町村及び防災関係機関の相互の連携による防災対策の確立及び防災業務関係者の防災技術の習熟を図る。
- (2) 住民の参加により、新潟県原子力災害広域避難計画の検証及び原子力災害発生時の避難対応力の向上を図るとともに、原子力防災に対する理解の向上を図る。

2 日時

- (1) 県災害対策本部運営訓練等
令和7年1月24日(金) 8:40～16:30
- (2) 住民避難訓練等
令和7年1月25日(土) 8:00～17:00

3 参加人数（2日間の延べ人数）

- ・ 関係機関 66機関 約900人
〔 県、市町村、内閣府、原子力規制庁、自衛隊、第九管区海上保安本部、北陸地方整備局、北陸信越運輸局、新潟地方気象台、東京電力 等 〕
- ・ 避難・一時移転等訓練参加住民 約500人
〔 柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町 〕
- ・ 屋内退避訓練対象住民 約163,000人
〔 柏崎市、刈羽村、長岡市、上越市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、出雲崎町の全部又は一部地域 〕

4 訓練想定

冬季に、柏崎市、刈羽村等で震度6強の地震が発生し、唯一運転中の柏崎刈羽原子力発電所7号機において、原子炉が自動停止。炉心冷却機能の一部が喪失し施設敷地緊急事態となり、炉心冷却機能が喪失し全面緊急事態となる。

その後、炉心が損傷し、放射性物質が放出され、一部地域で空間放射線量が一時移転の必要とされる基準に上昇する状況となる。

さらに、液状化等による道路寸断、雪崩による通行不能箇所が発生する状況となる。

5 訓練項目

(1) 1日目「災害対策本部運営訓練等」(1月24日(金))

- ① 県災害対策本部等運営訓練
- ② オフサイトセンター運営訓練
- ③ 緊急時通信連絡訓練

(2) 2日目「住民避難訓練等」(1月25日(土))

- ④ P A Z内住民の避難訓練
- ⑤ U P Z内住民の屋内退避訓練
- ⑥ U P Z内住民の一時移転訓練
- ⑦ 物資搬送訓練
- ⑧ 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練
- ⑨ 避難退域時検査、簡易除染訓練
- ⑩ 交通規制訓練
- ⑪ 広報活動訓練
- ⑫ 除雪訓練

今年度の訓練の特徴

○ 冬季の住民避難を想定した机上訓練・実動訓練

県広域避難計画策定後、初めてとなる冬季の総合訓練を実施

冬季における住民の避難を想定した本部運営訓練や、避難退域時検査における住民検査の屋内実施、NPO法人コメリ災害対策センター及び（一社）新潟県トラック協会と連携した物資搬送訓練を実施



物資調達状況の報告（班長会議）



屋内における住民検査



屋内における住民検査



コメリ店舗での物資の搬出
(写真：NPO法人コメリ災害対策センター提供)



避難所への物資の搬入
(B&G大和海洋センター)



ダンボールベッドの組み立て

今年度の訓練の特徴

○ 能登半島地震を踏まえた代替避難経路の検討と代替避難経路での避難

能登半島地震を踏まえ、道路寸断等で想定した避難経路が通行できない状況を想定し、本部運営訓練で代替避難経路の検討を行うとともに、それと連動して、住民避難を代替避難経路で実施



代替避難経路の検討の様子（県災害対策本部）



代替避難経路の検討の様子（柏崎刈羽オフサイトセンター）



県災害対策本部会議（県庁）



代替避難経路での住民避難の様子

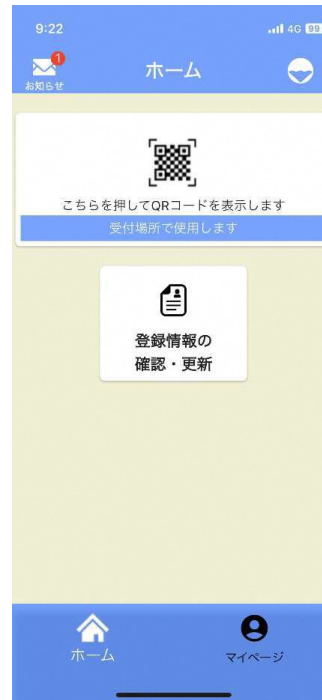
今年度の訓練の特徴

○ 新潟県防災DXアプリを活用した住民受付

原子力災害時におけるより円滑な避難に資するため、避難経路所等での受付業務の効率化を図ることを目的に、住民が避難者用スマホアプリや模擬マイナンバーカード等の二次元バーコードを受付場所で提示し、市町村職員が受付用スマホアプリで情報を読み取って受付・登録を実施



住民の受付の様子



防災DXアプリの画面（避難者用）



防災DXアプリの画面（受付用）

今年度の訓練の特徴

○ 雪崩による孤立地域の発生を想定した実動組織による除雪訓練

地震に伴う雪崩による孤立地域の発生を想定し、陸上自衛隊員が、県又は柏崎市が所有する除雪車を使用し、道路の除雪訓練を実施



除雪の様子（上越市）



除雪後の車両走行（上越市）



除雪の様子（柏崎市）



除雪後の車両走行（柏崎市）

今年度の訓練の特徴

○雪崩による孤立地域の発生を想定した実動組織による除雪訓練



令和6年度原子力防災訓練(①県災害対策本部等運営訓練)

1 日時及び場所

令和7年1月24日(金)8:40~16:00

新潟県庁大会議室、災害対策本部会議室、201会議室

2 訓練参加者(約190人)

県、関係市町村、関係機関

3 訓練目的及び実施内容

緊急時における国、県、市町村及び関係機関の対応力向上のため、災害対策本部等の設置・運営訓練を実施し、原子力災害時の一連の流れや手順の確認を実施しました。

R6年度は、能登半島地震を踏まえ、余震による雪崩や液状化等で道路寸断が発生した場合を想定した代替避難経路の検討や冬季の避難所必要な物資の検討・調達を行いました。[拡充]



統括調整部長（危機管理監）へのプラント状況等の説明



県災害対策本部会議

令和6年度原子力防災訓練(②オフサイトセンター運営訓練)

1 日時及び場所

令和7年1月24日(金)8:40～16:00 柏崎刈羽原子力防災センター(柏崎市)

2 訓練参加者(約70人)

関係省庁(内閣府、原子力規制庁等)、自衛隊、県、関係市町村、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

オフサイトセンターにおいて、国、県、市町村、関係機関が原子力災害合同対策協議会を組織し、情報共有及び現地調整活動等を実施し、災害対応に係る連携の強化を図りました。



機能班における活動の様子



原子力災害合同対策協議会全体会議

令和6年度新潟県原子力防災訓練（住民避難等）

【凡例】

	避難元	避難先
PAZ内住民の避難訓練		
UPZ内住民の一時移転訓練		
避難退域時検査会場		
除雪訓練会場		

燕市⇒燕市

- 避難退域時検査会場：分水公民館
- 避難経由所：分水北小学校
- 避難所：分水北小学校

十日町市⇒十日町市

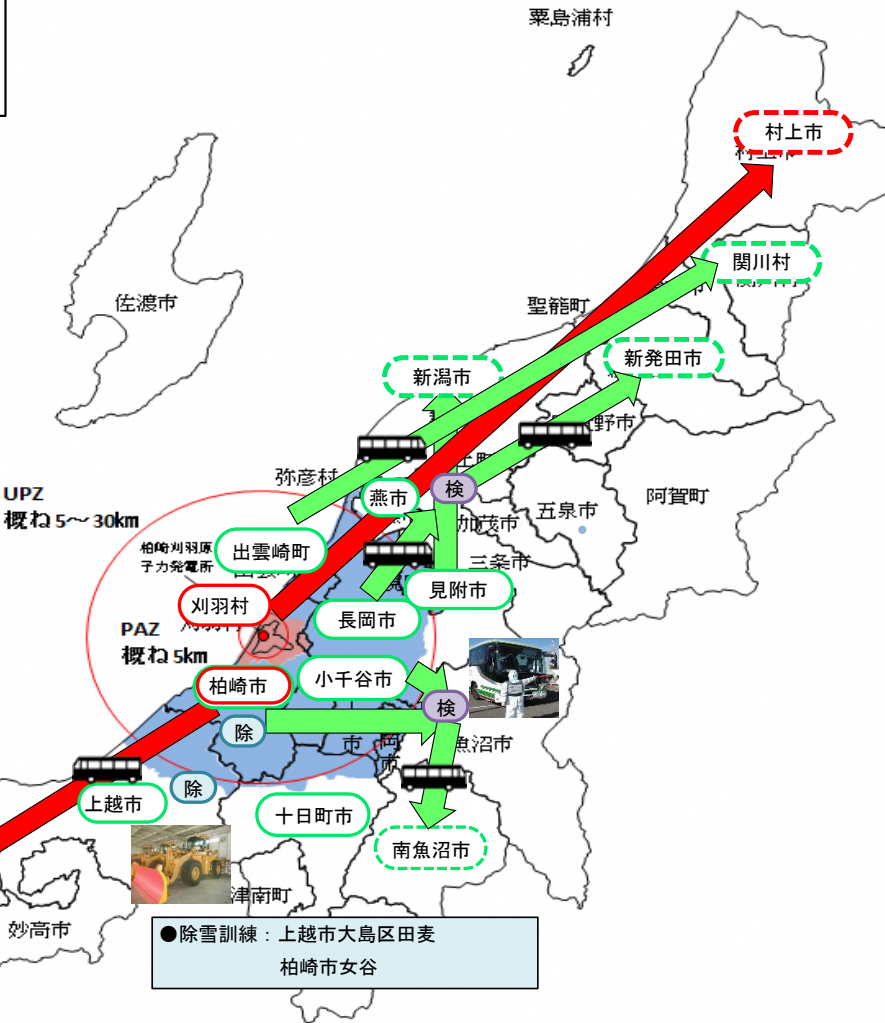
- 避難退域時検査：今年度の訓練は実施せず
- 避難経由所：道の駅クロステン
- 避難所：道の駅クロステン

上越市⇒上越市

- 避難退域時検査：今年度の訓練は実施せず
- 避難経由所：大島就業改善センター

柏崎市⇒糸魚川市

- 避難経由所：道の駅マリンドリーム能生
- 避難所：道の駅マリンドリーム能生



刈羽村⇒村上

- 避難経由所：荒川地区公民館
- 避難所：神林農村環境改善センター

出雲崎町⇒関川村

- 避難退域時検査：今年度の訓練は実施せず
- 避難経由所：せきかわふれあいど〜む
- 避難所：関川村村民会館

見附市⇒新発田市

- 避難退域時検査会場：分水公民館
- 避難経由所：新発田市立東豊小学校
- 避難所：新発田市立東小学校

長岡市⇒新潟市

- 避難退域時検査会場：分水公民館
- 避難経由所：新潟市みどり森の運動公園
- 避難所：黒埼南小学校

柏崎市⇒南魚沼市

- 避難退域時検査会場：魚沼市響きの森文化会館
- 避難経由所：大和市民センター
- 避難所：大和B&G海洋センター体育館 二日町体育館

小千谷市⇒南魚沼市

- 避難退域時検査会場：魚沼市響きの森文化会館
- 避難経由所：大和市民センター
- 避難所：大和B&G海洋センター体育館

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)8:30～12:30

避難経路所・避難所：道の駅マリンドリーム能生

2 訓練参加者(職員22名、住民約40名)

柏崎市、糸魚川市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

PAZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、本部運営訓練と連動した代替避難経路でのバスによる住民避難を実施しました。[拡充]



避難経路所・避難所での受付時



避難所の様子

令和6年度原子力防災訓練(④PAZ内住民の避難訓練：村上市)

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)9:00～14:00

避難経路所：荒川地区公民館

避難所：神林農村環境改善センター

2 訓練参加者(職員23名、住民約30名)

刈羽村、村上市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

PAZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、新潟県防災DXアプリを活用した住民受付、本部運営訓練と連動した代替避難経路でのバスによる住民避難を実施しました。[拡充]



避難経路所への移動



避難経路所での受付



避難所での受付

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)8:30～13:45

避難経由所：南魚沼市大和市民センター

避難所：南魚沼市大和B&G海洋センター、二日町体育館

2 訓練参加者(職員約45名、住民約210名)

柏崎市、小千谷市、南魚沼市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

UPZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、新潟県防災DXアプリを活用した住民受付、能登半島地震を踏まえ、代替避難経路でのバスによる住民避難(柏崎市)を実施しました。[拡充]



避難経由所での受付



避難所での受付

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)8:30～13:10

避難経由所：新潟市みどりと森の運動公園

避難所：新潟市立黒崎南小学校

2 訓練参加者(職員約22名、住民約48名)

長岡市、新潟市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

UPZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、新潟県防災DXアプリを活用した住民受付、能登半島地震を踏まえ、代替避難経路でのバスによる住民避難を実施しました。[拡充]



一時集合場所での受付



避難経由所での受付



避難所での受付

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)8:30～11:30

避難経路所：道の駅クロステン

避難所：十日町市立西小学校、十日町市立東小学校、県立十日町総合高校

2 訓練参加者(職員約13名、住民約36名)

十日町市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

UPZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、新潟県防災DXアプリを活用した住民受付を実施しました。



避難経路所での受付



原子力防災研修

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)8:45～14:30

避難経由所：新発田市立東豊小学校

避難所：新発田市立東小学校

2 訓練参加者(職員約14名、住民約20名)

見附市、新発田市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

UPZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、新潟県防災DXアプリを活用した住民受付、能登半島地震を踏まえ、代替避難経路でのバスによる住民避難を実施しました。[拡充]



避難経由所での受付



避難所での受付

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)9:30～12:20

避難経由所：燕市立分水北小学校

避難所：燕市立分水北小学校

2 訓練参加者(職員約10名、住民約35名)

燕市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

UPZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、孤立地域を想定した、陸上自衛隊による高機動車での住民避難を実施しました。[拡
充]



一時集合場所から高機動車での避難



避難経由所・避難所での受付

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)9:00～12:10

避難経由所：上越市大島就業改善センター

2 訓練参加者(職員約20名、住民約30名)

上越市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

UPZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、孤立地域を想定した、陸上自衛隊による高機動車での住民避難を実施しました。[拡
充]



一時集合場所での受付



高機動車での避難



簡易除染体験

1 日時及び場所

令和7年1月25日(日)8:45～13:00

避難経路所：せきかわふれあいど～む

避難所：関川村民会館

2 訓練参加者(職員約15名、住民約35名)

出雲崎町、関川村、県

3 訓練目的及び実施内容

UPZ内住民を対象として避難訓練を実施しました。

R6年度は、新潟県防災DXアプリを活用した住民受付、能登半島地震を踏まえ、代替避難経路でのバスによる住民避難を実施しました。[拡充]



避難経路所での受付



避難所での受付

令和6年度原子力防災訓練(⑦物資搬送訓練)

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)9:00~13:30

避難所:南魚沼市大和B&G海洋センター、二日町体育館

2 訓練参加者(10名)

県トラック協会、NPO法人コメリ災害対策センター、(一社) Smart Supply Vision、柏崎市、南魚沼市、県

3 訓練目的及び実施内容

柏崎刈羽原子力発電所の緊急時において、避難所等への救援物資の搬送が円滑に行われるよう、保存食など生活物資等について、**スマートサプライECを活用し、コメリ店舗等から避難所へ緊急搬送を実施[新規]**。



コメリ店舗からの物資の搬出
(写真:NPO法人コメリ災害対策センター提供)



県トラック協会の手配による
緊急物資輸送車



避難所への物資搬入

令和6年度原子力防災訓練（⑧安定ヨウ素剤緊急配布訓練）

1 日時及び場所

令和7年1月25日（土）

一時集合場所（柏崎市、刈羽村、長岡市、小千谷市、見附市、燕市、上越市）

避難退域時検査会場：魚沼市響きの森文化会館（魚沼市）、燕市分水公民館（燕市）

2 訓練参加者（職員約140名、住民：約450名）

柏崎市、刈羽村、長岡市、小千谷市、上越市、見附市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

緊急時における安定ヨウ素剤配布について、関係団体及び職員の習熟を図るため、避難住民等に対する安定ヨウ素剤の配布・服用指示の伝達等を実施しました。



一時集合場所での配布



一時集合場所（バス車内）での配布

令和6年度原子力防災訓練（⑨避難退域時検査・簡易除染訓練）

1 日時及び場所

令和7年1月25日（土）9:50～12:30

魚沼市響きの森文化会館（魚沼市）、燕市分水公民館（燕市）

2 訓練参加者（要員約180名、住民：約380名、車両：バス13台、普通車6台、自衛隊高機動車7台）
県、県診療放射線技師会、千代田テクノル、陸上自衛隊、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

検査会場において、UPZから一時移転を行う車両・住民の汚染検査と簡易除染を実施しました。

R6年度においては、寒冷・荒天時の発災を想定し、住民検査及び簡易除染を屋内において実施しました。[新規]



積雪下での検査会場の設営状況



車両検査の様子



屋内における住民検査の様子

令和6年度原子力防災訓練(⑩交通規制訓練)

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)9:00~11:00
国道352号 松波交差点(柏崎市)

2 訓練参加者(9名)

県警察本部

3 訓練目的及び実施内容

交通の混乱を最小限度にとどめ、住民の安全な避難と関係機関の実施する防護対策活動が円滑に行われるよう緊急事態応急対策実施区域及びその周辺地域への交通規制を実施しました。



検問所の設置



手信号による交通整理



信号機の復旧

1 日時及び場所

令和7年1月25日(土)9:30～10:00
柏崎市女谷地内、上越市大島区田麦地内

2 訓練参加者(約40名)

柏崎市、上越市、県、陸上自衛隊

3 訓練目的及び実施内容

地震に伴う雪崩による孤立地域の発生を想定し、陸上自衛隊員が、県又は柏崎市が所有する除雪車を使用し、道路の除雪訓練を実施。



除雪の様子 (上越市)



除雪後の走行確認 (上越市)



除雪の様子 (柏崎市)



除雪後の走行確認 (柏崎市)

令和6年度個別訓練(航空機・船舶避難訓練)

1 日時及び場所

令和6年8月24日(土)8:30～13:35

鯖石川改修記念公園、柏崎港、直江津港、高浜漁港、寺泊港

2 訓練参加者(8機関・160人、住民40人)

新潟県、柏崎市、陸上自衛隊、海上自衛隊、第九管区海上保安本部、柏崎消防本部、柏崎交通株式会社、頸城自動車株式会社

3 訓練目的及び実施内容

地震に伴う市道の寸断等により孤立地域が発生し、PAZ住民の一部について**航空機・船舶を連動した住民避難訓練と巡視船と搭載艇による住民避難訓練を実施[新規]**。



ヘリコプターへの搭乗の様子



船舶に乗船する様子



搭載艇による避難の様子



搭載艇を巡視船に収容する様子

令和6年度個別訓練(学校等での児童の保護者への引渡し訓練)

1 訓練日程及び参加学校等

- 9月6日(金) 刈羽小学校(PAZ) ● 10月26日(土) 二田小学校(PAZ)、内郷小学校(UPZ)
- 10月22日(火) 北鯖石保育園(UPZ) ● 11月1日(金) 瑞穂中学校(PAZ)
- 10月24日(木) 私立にしやま保育園(PAZ)、鯖石小学校(UPZ) ● 11月14日(木) 田尻小学校(UPZ)

2 訓練参加者(教職員137名、児童1,014名)

柏崎市、刈羽村、県、バス事業者

3 訓練目的及び実施内容

柏崎刈羽原子力発電所の緊急時における学校及び保育所の児童の避難を円滑に実施するため、保護者への引渡し、関係機関による避難バスの確保・乗車等の訓練を実施。



児童の移動の様子



ランチルームでの児童の引渡し



体育館での児童の引渡し



教職員同乗でのバス避難

令和6年度個別訓練(放射線防護対策施設の屋内退避訓練)

1 日時及び場所

令和6年11月2日(土) 9:00 ~ 14:30

社会福祉法人西山刈羽福祉会 特別養護老人ホーム にしかりの里
柏崎市中通コミュニティーセンター

2 訓練参加者

にしかりの里、柏崎市、県、東京電力HD

3 訓練目的及び実施内容

柏崎刈羽原子力発電所の緊急時において、避難することにより健康リスクが高まるなど、即時避難が困難な施設入所者や在宅の避難行動要支援者について、無用な被ばくを避けるため、放射線防護措置を実施済みの施設へ搬送し、屋内退避する訓練を実施。



にしかりの里での訓練の様子



住民によるエアテント設営訓練



①良かった点

- ・ 全体の流れや細かい説明を職員に丁寧に行ってもらったので、混乱なくスムーズに訓練ができた。
- ・ カイロやマスクが準備され、防寒や集団行動対策がされていた。

②改善すべき点・不安に感じる点

- ・ 今回はバスでの避難で雪もなくスムーズに行えたが、積雪時に自家用車で避難できるか不安。冬季の自家用車避難も実施してもらいたい。
- ・ 声が聞こえづらい人もいるため、メガホンで声掛けしてもらいたい。
- ・ 受付をアプリに一本化してもらいたい



次年度以降も、様々な想定の訓練を継続的に実施することで、防災関係機関の対応能力や住民の防災意識を高めていきます。